

第12期 松戸市緑推進委員会
第7回 委員会

1. 日時 令和5年10月6日(金) 14:00~16:00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛・小谷幸司(オンライン)・高橋盛男・河合直志・石川静枝・藤田 隆・
上野義介・榎谷有三・並木能子・河野芳久・増木宏行

○松戸市

保木正継 (街づくり部審議監)

布施 優 (公園緑地課課長)

飯沼 修 (21世紀の森と広場管理事務所所長)

和宇慶さやか (公園緑地課 主任)

○兼事務局(みどりと花の課)

三末容央(課長)・木村高德(補佐)・木原 茂(補佐)・中山 茜(主査)・今井涼太(主事)・
岩田 昇(主査)

○傍聴 0名

事務局より本委員会の成立について、委員人15名中12名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

2 議事

- 1) 議事要録の確認
- 2) 第12期緑推進委員会テーマについて
- 3) みどりのサロン部会からの報告
- 4) その他

3連絡事項

4閉会

議事1) 議事要録の確認について

会長

事前に送付した議事要録について異議はあるか。

無ければこれを以て議事要録とする。

——承認——

議事2) 第12期緑推進委員会テーマについて

事務局

それでは最初に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

資料1として、スケジュールと審議項目。

資料2として、みどりのプロモーションコンセプトのたたき台。

資料3として、松戸みどりのメッセージブック編集方針案

資料4として、ペルソナ一覧表。

資料5として、前回（第6回）緑推進委員会の議論について

資料6として、みどりのサロン部会、みどりのフォーラム企画案、開催準備進捗報告

追加資料として、ぷらっと子どもの森in囲いやまの森 A4縦の報告書、第4回あそびの森in囲いやま A4のチラシ、令和5年度第39回都市公園等コンクール

以上が本日の配布資料でございます。それでは議事について説明いたします。

第12期緑推進委員会の任期が来年の6月までとなっております、委員会も残り4回ほどとなる予定です。

6月末には松戸市長に、委員会の提言や活動報告をすることになっておりますので、その前に委員会の提言や活動報告をまとめる必要がございます。

今回、スケジュールの確認を行いたいと考えており、そのあと前回は引き続き、ペルソナの設定、プロモーションのコンセプトとしてお示しした冊子、コンセプトブックについて今後必要な事項について一つずつ確認し、決めていきたいと考えております。

また、その内容につきましては、同報告書に記録として伝えたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料1をご覧ください。今後のスケジュールとなります。

左側に委員会の予定があり、市長報告までの概ねの日程を書いております。

真ん中にあるのは、その委員会で審議を考えている項目です。

また、前回お示しました、みどりのプロモーションに関連することを項目として挙げていますけれども、それ以外に委員会の開催に関連づけてその他の情報を載せております。

例えば第8回になりますと、市民委員募集の要項、テーマについて議論していただきたいと考えています。みどりのプロモーションにつきましては、今日ペルソナを決定しましてプロモーションの冊子の編集に必要な詳細事項も整理します。冊子はプロトタイプとして第11回の市長報告の前までに完成させたいと事務局の方では考えております。

次に資料2と3をご覧ください。

前回、みどりのプロモーションコンセプトをご審議いただいた結果をもとに、修正したコンセプトブックのたたき台が、資料2でございます。

これにつきましては新たに編集方針案を作成しました。こちらが資料3でございます。

資料3は、コンセプトブックを作成するための必要な事項を定めたもので、今回たたき台の修正案を作成するにあたっては、その編集方針をもとに作成しております。

本日は、編集方針案で挙げた目的やコンセプト、配布先、冊子の名前など各項目について、ご確認いただき、内容を定めて参りたいと考えております。

また、編集方針に挙げた項目以外で、必要だと思われることがございましたら、追加を考えておりますのでよろしくお願いいたします。

資料4をご覧ください。ペルソナの一覧表でございます。

前回の委員会で、ペルソナについては、3つの世代から選定することが決まっております。表は太枠で3つの世代に区切っております。

1つ目が子育て前の世代。

2つ目が子育て世代。

3つ目が子育ての終わった世代。

15から16はその枠に入らなかったものです。本日はプロモーションを進めるにあたって、ターゲットするためのペルソナを、この各世代から各1名、選出させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

次に、資料5については前回の審議内容をまとめたものでございますので、今日の審議の参考資料として使っていただきたいと思います。

以上説明となります。

会長

まず資料1について、大体のスケジュール感をご理解いただけましたでしょうか。

一番下の第11回は市長報告で、委員会の提言書と活動報告書を市長に渡します。市長がその時いらっしゃればここにおられて、1人1分とか2分言いたいことを各委員から言えて、提言書を渡します。市長の都合が合えば、そのままお話をする機会があるので、それが中心となり、実質的な議論は、この第11回は行われないこととなります。したがって、4月末から5月の中頃に行われる下から3番目の第10回委員会で、答申なり提言書を確定させるということになります。

それがもともとの仕事ですけど、今回はメッセージブックのプロトタイプを作ってみようという提案です。この資料2でラフになっているものを一通り完成させて、それを委員会の答申提言に含めて、今期の委員会の成果にしたいと思っております。

第10回が議論できる最後の委員会になりますので、それまでの委員会での審議項目に加えて次期市民委員を選ぶための募集テーマも検討していくこととなります。

提言書の中では来季の委員会に向けて今期できなかったことの何を引き継いでもらうかという議論もあります。事務局の作業スケジュールが間に入っていますが、これからの各委員会のスケジュール感が示されています。

プロモーションのためのメッセージブックを作っていきますが、基本的にはこんなマイルストーンでやっていく中で「結局何が大事だったんだっけ？」となることがあります。今回は編集方針という形で今まで議論してきた「これが重要だ」ということをまとめているので、ある程度それに従って作っていけるようになっています。

これは1冊作ればいいのでしょうか。

事務局

これからペルソナを整理して詳細な条件を考えて、そこをターゲットに仕上げていくものになると思っております。現在、3つの世代を考えている中で子育て世代をイメージして案の作成をしています。今後はターゲットごとにメッセージブックが作られると思っておりますが、今期ではペルソナの選定からメッセージブック作成の流れを一通りできればと思っています。

委員

こちらの仕上がりサイズはどのようになりますか。

事務局

A4二つ折りのA5サイズを想定しています。

このあたりのサイズ、配布の方法とかを編集方針で決めていければと思います。それにより、作り手が変わっても当初の目的等を引き継いで更新作業ができるものと考えています。

こちらの編集方針についても案の状態なので、これからの議論により文字の大きさや本体のサイズも変わる可能性があります。

委員

表紙の「Green master Plan」というのが堅いかなという気がします。

事務局

こちらにつきましても、案の状態なので議論いただきたいと思います。

会長

こちらは編集方針として、これからのことを整理してあるので、例えば今の「サイズの話」とか「表現が硬い」と思ったところを、そうならないように編集方針に入れておくことが大事だと思います。

昨年度に公表された「松戸市みどりの基本計画」を市民に知ってもらいたいが、「パンフレットのような概要版を作成しても市民に浸透していかない」という発想がこちらのメッセージブックの出発点なので、そのあたりも意識して考えていきたいですし、内容が「みどりの基本計画」そのものではなく、「みどりの基本計画」に繋がっていくものなので、発行するのが誰なのかも決めていくことになると思います。「みどりの基本計画」同様に役所が発行するか、緑推進委員会やサロン部会の発行とするか、こういったことを好きでやってくれる人を探してほしいするか、内容もそれによって変わる部分があると思います。今回作成する1冊で終わりではなく、持続していくものですので、そのための方針と「緑推進委員会としては、こんな感じのものを作りたい」というものを整理しておくことは大事だと思います。

まずは一通りの説明を事務局にお願いしたいと思います。

事務局

それでは資料3の説明をさせていただきます。

こちらの内容は案ですので、これからの審議内容を反映して変更するものと考えております。

まずこちらのメッセージブックは、前回委員会でコンセプトブックと説明したものにりますが、コンセプトブックと意味合いが変わってきましたので、メッセージブックと変更させていただきました。みどりのライフスタイルをメッセージとして発信することで、それに共感してくれる市民をふやしていきたいと考えています。みどりに共感する市民力を育てることにより「みどりの

基本計画」の理解を推進するということをイメージしております。

次に今回のターゲットは前回委員会で限定された「子育て世代の前・中・後」からペルソナとして決めたものとなり、次回以降のその設定は各発行ごとに1つのペルソナを設定し直すものになります。

1年に1冊程度の発行を考えていますが、配布先や配布方法はペルソナに左右されるものですので、その都度定めていければと思います。媒体は基本的にデジタルとペーパーの両方として、ペーパーにはデジタルに飛べるようにリンクを記載したいと考えています。ペーパー版のサイズはA4二つ折りのA5で、案では横書きとしています。

次に全体レイアウト方針です。

「各ページには写真等を多用して、メッセージやコンテンツを視覚的に示す」ということで、文字をなるべく少なくして、写真等でイメージを伝えていく方針です。写真等は高品質で魅力的なものを使用し、地域やライフスタイルの魅力を引き立てるものとしています。

フォントにつきましてはユニバーサルデザインのものを使用して、大きさは10ポイント以上としています。こちらについても世代によって変わってくると思っています。

冊子のカラースキームは各号に一貫性を持たせるものとして、各号ごとにテーマカラーを決定したいと考えております。それを決定しないときは、緑を基調とした冊子を作りたいと考えています。

次のページになります。

レイアウトに関しては適度なホワイトスペースを確保して、空間にゆとりを持つような形にしたいと思います。

重要な情報は文字の背景について配色を変更することによって、そのポイントを明確にします。プロモーションに関連する情報や動画がある場合には出来るだけQRコードを載せたいと思います。各号発行方針としては、先ほど年に1冊と話しましたが、各世代1冊なので3冊となります。

メッセージブックの名前が「Green master Plan」、副題は「みどりのライフスタイルメッセージ」として、発行毎に巻数がかかるように通し番号を標記していきます。

メッセージブックの構成は、表紙、目的とメッセージ、市民憲章7つのライフスタイル、みどりのライフスタイルの提案、人物や団体紹介、裏表紙、で構成します。各構成の内容は、

- ・表紙

表紙に使用する写真は、設定したペルソナや各項目に合ったものとしします。

- ・目的とメッセージ

こちらではまず「みどりと豊かな暮らしを提案し・発信します。」という文章を入れてメッセージブックの役割を記します。次に説明として「みどりは暮らしに豊かさをもたらす多数の機能があります。みどりのある暮らしを楽しむきっかけをつくり、発信します。」、目的となる「みどりの基本計画の実現」として、それをイメージした写真を大きく掲載し松戸しみどりの基本計画のHPにリンクするQRコードを記載します。

- ・市民憲章・7つのライフスタイル

第6回委員会で議論にありましたアイコンの案を作成しました。こちらのアイコンのデザインやそれぞれの文言についても議論いただきたいと思います。

「憩う みどりの中で、くつろぎ、心のゆとりを感じられる暮らしの提案」

- 「食べる くだものや野菜、ハーブなどの収穫や食を楽しむ暮らしの提案」
- 「動く（からだをうごかす） 心身の健康を守り、生き生きとした暮らしの提案」
- 「育む みどりの魅力やみどりを育てる喜びを感じ、緑に彩られた暮らしの提案」
- 「遊ぶ 子どもたちの夢とあそびのある暮らしの提案」
- 「集う まちのにぎわいや楽しさを感じられる暮らしの提案」
- 「働く 多様なワークスタイルとライフスタイルの提案」

- ・みどりのライフスタイル提案

こちらは実際のライフスタイルを提案するものになります。提案は2つ以上として、A4の1ページにまとめるものとします。7つのライフスタイルのどれに関連するか分かりやすくするために関連するアイコンとともに、提案に関連した動画等のQRコードを掲載したいと思います。資料ではシティープロモーション担当室が作成した晴耕雨読のリンクとなっています。

- ・人物、団体インタビューの紹介

作成に関わった人の顔が見えると親しみがわきますので、そういった共感してもらうイメージで掲載内容を考えていきたいと思います。資料では人物ではなく、人物の周辺の「みどり」の紹介としています。

- ・発行元

裏表紙には企画・発行元を記載します。専用のウェブサイトが出来たら、そちらのURLも記載したいと思います。

- ・その他

「松戸×晴耕雨読」の記事について、メッセージブックに転記することが出来ますが、シティープロモーション担当室にその旨を報告する必要があります。また、店舗等を紹介する場合は、松戸市役所という立場上、一般財団法人松戸観光協会会員企業一覧の中から選定することになります。

以上が編集方針の説明となります。

会長

ありがとうございました。まずは皆様から自由にご意見いただきたいと思います。

1つ1つ気になるところとか、ここはもうちょっとこうの方がいい。そういったご意見が編集方針に返ってくるような形がいいと思います。

これを考えた後、これを継承してつなげていく上で、編集方針が大事なルールとして今後の拠り所の一つになると思います。これは高橋委員がプロなので、「もうちょっと、こんなことを付け加えておかないと駄目だよね」というご意見いただければと思います。編集方針のプロトタイプはここで作りますが、その後どうやって継承していくか。編集委員会みたいなものを作るのか、或いは外注して、コンセプトに沿って編集してもらうようなものを目指すか、最終的には将来のことも考えていかなければいけないかなと思っています。

今回作成するメッセージブックは、どこかの世代なりペルソナをターゲットにテストケースで作っていくようになりますので、後でまた検討したいと思います。

先に編集方針を考えたいと思いますが、先ほど木下委員より「メッセージブックの表紙の名前」についてのご意見がありましたので、まずそのあたりからお話しいただければと思います。

委員

表紙の写真は毎回変えるイメージをされているようですが、案にあるものもいい写真だと思いますので、これを残してシリーズとしての関連性を表現してもいいと思います。あるいは、2022年に発行された、松戸市みどりの基本計画の表紙の絵を使うのも一案かと思います。

事務局

事務局の案ではペルソナの共感という観点から毎回違う写真と考えていましたが、そういった内容につきましては、委員会で議論していただきたいと思います。

委員

毎回同じ表紙にして、開いたところでペルソナのイメージを打ち出す形の方が、これを読んで束ねた時に一貫性があるって分かりやすいと思います。

会長

雑誌の名前が変わることはないと思いますが、見てすぐに同じ雑誌とイメージさせる方法として、表紙を同じにするとか、デザインで一貫性を表現するというのもあると思います。

委員

今これを見ていて、ゼロからこれを作っていくのは中々大変なことだったと感じます。説明の中で、10番のメッセージ構成では話題になっている表紙もありますが、みどりのライフスタイルの提案というところを少し深く考えていきたいと思います。2回目、3回目ぐらいまでは「大体こういうふうな感じで行くよ」とやっているのと、大体みんなの頭の整理もついて今後の作業も容易になってくると思います。今回の1回目では目的メッセージのページとか、市民憲章とか、7つのライフスタイルが大きく出ますが、2回目、3回目以降は小さくなったり、選択していくような形になる気がしますが、その辺りはいかがでしょうか。

会長

ページの割付でいうと4、5ページ目になるとと思いますが、本来は提案がもうちょっと充実していて、7つのライフスタイルの説明が簡潔になっていくとのお話しですが、事務局の案としては毎回載せるってイメージですか。

事務局

年に1回くらいの発行なので、毎回そこから始まっていくイメージを持っています。

委員

雑誌発想でお話ししますと、このページは全部後ろにして、表紙のページのイメージで、次に提案とした方が見る方は食いつきがいいし、入りやすい。展開としては、提案・イメージを頭から持って行って、「何でこういう提案してるの」というと

ころでこれが出てくるぐらいの構成がいいと思います。

それから統一感を出すのに、「Green master Plan」と「みどりのライフスタイルメッセージ」とが同義なので、この2つを組み合わせると1つの枠のロゴを作って、これとは別のタイトルを毎回つける。例えば、「松戸の緑と遊ぼう」とか「松戸のみどりを味わおう」とかの何かを一緒にしましょうよという誘いかけの方が共感という意味では、メッセージ性があると思います。

会長

10のメッセージブックの構成の順番を変えた方がいいというご意見でした。

確かに、いきなり提案があって、後ろの方を見ていくと、定型的な説明が出てきて「こういうことなんだ」ということになる。

それから統一感に関しては、「Green master Plan」と「みどりのライフスタイルメッセージ」を組み合わせるとロゴを作成して関連性を演出していく。ロゴとは別に、その時の特集によってテーマが表に出てくるイメージとなります。

他にはいかがでしょうか。細かいこと気づいたことをなるべく編集方針の方にフィードバックしていきたいと思います。

委員

3と4のところになります。子育て世代前、子育て世代、子育ての終わった世代、それぞれに向けて年1回メッセージブックを発行することになっています。3冊を年1回ずつ発行する大変さと、3冊の中の共通部分を考えたときに、1冊の中に各世代に向けてのページを入れて年1回1冊の発行としてはどうかと思います。仕事量からすると1年に1回、3冊作るよりも1冊にまとめた方が簡単になりますし、3つの世代をまとめたことによって、全体的には「こういうメッセージ性があるんだな」というように思わせていく方法もあるかなと思います。

会長

今のは大きなポイントになりそうです。

元々の発想は、狙いを絞って、尖ったものを編集して、それに合うところに配っていく、「ターゲットに配ると周りにも波及する」というところを狙っていくような議論を重ねてきたわけです。今の方針では、それぞれのターゲットごとに年1回の発刊で、1年間に3冊出すことになっていますが、仕事量を考えると大変なので、個別のターゲットに向けたページを組み込んだ1冊を作っていく方がいいのではないかというご意見です。

この話しに関してご意見いただければと思います。

委員

出す側の都合を考慮するか、見る側の立場で考えるか、となると思います。全部の世代向けのメッセージがページごとに分かれていたとして、それでは全体で見るとすごくメッセージ性が弱まってしまいます。受取った人は「私たちのところに来てるんだな」と思うから見るという人もいます。ターゲットとは違う世代に向けた情報が入っているのは、悪いことじゃないですが、「3つの世代向けの情報をバランス良く入れましょう」と考えて作った印刷物となると、ペルソナに向けて尖

っていた内容とは変わってくると思います。

委員

3つの世代をターゲットにして、それぞれ1冊ずつ作成していくにあたっては、発信する主なメディアやデバイスを意識した構成でボリュームを考えないと、辛くなってくると思います。

委員

3世代に一樣に紙媒体で出す必要があるのか。大事なのは情報そのものなので、情報と情報の枠組み、コンテンツとしての見え方、になると思います。例えば子育て世代や子育て前の世代だったら、必要な情報の出し方は、紙でもいいし動画等のデジタルメディアでもいい。

委員

一番最後の写真がすごくいいなと思いました。パーティーみたいなので若い世代へのメッセージ性はすごくある。ターゲティングを考える上では、すごく膨らむネタだと思います。挿し絵としてだけではなくて、それだけでもすごくインパクトがあるので、世代によって見せ方を考えるといいと思います。

会長

メッセージブックを作るということで、編集方針を考えています。発信に関しては使えるメディアはたくさんあると思うので、メディアとして編集方針の中で整理するのもいいと思います。前回の委員会でも話題となりましたが、松戸市で使えるメディアを調べたら、あまり具合が良くない。先ほども見ていましたが里やまの動画も、1年で200回ぐらいしか見られていなかった。単純に松戸市の媒体を使うのではなく、ちょっと工夫が必要になると思いますが、紙以外の媒体についても編集方針の中に話しを入れてみようと思います。

ペルソナの設定については、発行毎に1つのペルソナとして、そこに向けた編集をしていくことでよろしいでしょうか。

委員

まず表紙の写真ですけども、私はこのイベントを知っているのでイベントのイメージがとても強いです。この案は仮に作ったものだと思っていますが、せっかくこの表紙を作っているのだから、これを子供等、子育て世代にアピールしていくのもアリかなと思っています。

色々な世代がこの表紙の写真には関わっているので、ペルソナの3つのパターンにもなっている子育て世代へのPRにも使えるものだと思います。この表紙をベースに「みどりと遊ぶ」とか、「みどりに集う」とか、「みどりを育む」とかのサブタイトルやマークみたいなもので、その世代をターゲットに作っていく。バージョンが3つあるんだというのは後ろの方でお知らせすると思います。ターゲットによって情報量が違ってくるのかなと思いますので、ページ数で変えるのか、内容の濃さを調整するのか。紙の情報は固定して、調整したものはデジタル発信とするのもいいと思います。SNSが若い方には見られていますけど、やっぱり紙ベースのものも結構見られているので、そこも大事にしつつSNSでも発信していくといいと思います。

事務局

案の中でイメージしているのは、各ページに関連する動画などのQRコードを入れようと思っています。

シティプロモーション担当室に相談に行った時に、「デジタルが難しいっていうのはその情報に辿り着くまでの道のりが長くて分からないから、その情報にアクセスされない。」という話しもあったので、そこに辿り着く手段をこちらで少しフォローしたいと思います。

作成した紙のものを皆さんにお配りできれば、その分デジタル情報にもアクセスいただけるかなと思っています。

委員

子育て世代などに配布するということですが、作成した冊子は、どのようにして配るイメージでしょうか。

事務局

子育て世代ですと、保育園やそういう世代の方が来るイベントです。

最近では「まつど森ずかん」で顕著でしたが、ターゲットの目を引く表紙であれば手に取ってもらいやすい。基本的には、ターゲットがいる場所に、ターゲットが興味を持ちやすい内容の、ターゲットの目を引く表紙で作られた冊子を、持って行きたいと思っています。

例えば、大人ですと大農業祭りとかのイベントであったり、若者世代では大学に置かせてもらえば目に止まる機会も増えてくると思います。

委員

みどりのシティプロモーションにおいては、元々みどりに関してのイベントや活動を知らない人や、みどりに関心がない人に対して、この冊子でアピールすることになるので、やり方次第で非常に効果があると思います。その場合は3世代の内容を盛り込んだものより、ターゲットを絞って作成してある冊子の方が効果的だと思います。

事務局

興味を持ってもらうためには興味のあるものを作らないと、手にしてもらうこともできないので、まずは視覚的に訴えることができる「楽しそうな冊子」を作ることを考えています。

みどりに関連するイベントに来ている人も、みどりに興味のある人だけではないですし、それ以外のイベントであれば、みどりに関心のある人は少ないと思います。特にターゲットになっている世代の参加が多数見込まれるイベントでは配布していきたいと思っています。

委員

私は先日、お話を聞いて松戸の里やまを初めて知りました。里やまを守っていくってということがいかに大事なのか、これを代々守って、次の世代、子供たちに引き継いでいかなくちゃいけないことの重要性も全く分かっていなかった。

ここで議論している人と違って、一般市民は「里やまって何」というところからになると思うので、せつかく冊子を作るなら、そのワードだけでもいいですし、関心を持ってもらえるそういったページがあると、更にいいのかなと思います。

会長

「松戸市みどりの基本計画」を作っているときにアンケートを実施していますが、その中でみどりの認知や活用が弱いという結果が得られています。アンケートに答えてくれる人は多少なりとも関心のある人だと思いますので、アンケートに答えない関心のない人は更に弱いだろうと考えられます。「高い山」と「広い裾野」は基本的にはセットなものなので、一般市民に向けて作るという発想は大事になってくると思います。

先ほどの発言にあった発刊ごとのタイトルにしても、一般市民から見てキャッチーなものにすることを意識した方がいいですね。

委員

ある世代向けの1冊のタイトルが「里やまってなあに？」とするのもいいと思います。そうすると「みどりの基本計画」の中に取り上げられている、実際の里やまの取組み等を紹介していく。そういうことは、どんどん入れて欲しいと思います。

委員

7つのライフスタイルについて、設定したペルソナに向けて濃淡つけないで平均的に7つのライフスタイルを紹介するのではなく、ペルソナによって7つのライフスタイルにも差が出てくると思いますので、強弱つけて編集するといいと思います。

会長

例えば、「遊ぶ」は「子どもたちの夢と遊びのある暮らしの提案」となっていますが、子育てしている人をペルソナに設定していれば、ここは力が入るポイントになるでしょうし、「働く」の「多様なワークスタイルとライフスタイルの提案」は、仕事をしている人をペルソナに設定していると、濃くなるポイントだと思います。

委員

一番最後にテーブルに料理が載っている写真があります。この写真はすごくいい思っていて、表紙に使ってもいいくらいのものだと思います。

例えば皆さんにちょっとイメージして欲しいのは、このテーブルの上に料理が載っている写真は野外パーティーをしようとしていると思いますが、これはどの世代に向けての写真でしょうか。また、それぞれ3つの世代をターゲットにしたときに、このテーブルの上に載ってくるものは何でしょうか。

そういうことをイメージしていくと、どういうメッセージを伝えるものか考えやすいと思います。里やまの話だと、おそらくこれじゃないものになる。メッセージ性の違いは、そういう違いになると思います。

委員

きれいな公園で素晴らしいお料理の写真ですね。

委員

こんな綺麗じゃないですけど、里やまの一部では仕事終わりに、みんなで食べ物を持って行って食べるという「森の食卓」もあります。森の食卓に魅せられるのは、現役を引退した世代だと思いますので、そこにペルソナ設定した時には選択肢になる。

会長

この写真の会には私も参加していました。

公園でパーティーやれるということで、簡単なドレスコードまで設定して楽しんでいました。

授業で学生に見せると喜ぶんだけど、やっぱり里やまと言った時には、この写真とは違う雰囲気
の森の中になりそうです。

委員

まず、手に取ってもらわないことには広まらないので、そのあたりを意識して表紙の作成時には身近なものを使ったりするといいと思いました。

委員

ここに綺麗なティーカップとノートパソコンが載っていたりすると、周りがみどりなのでフリーアドレスのオフィスのようなイメージになる。そんなことを考えていくのも面白いと思います。

委員

9番のメッセージブック名の中で、「発行毎に巻数を標記することとする。」となっていますが、配布先・配布方法・ターゲットによって各発行物のイメージが違うものになると思いますので、番号で一貫するよりも、各メッセージブックの副題で色を出して区別していくといいと思いました。

今回は3つの世代をターゲットに考えていますが、それぞれが自分に合う1種類を持っていて、3種類全部を所有して並べている状態はイメージしなくてもいいかなと思います。

事務局

発行毎の巻数標記は、発行する側の記録・整理が主な理由です。

会長

どこかにそっと書いておくだけでもいいかもしれない。さっきのロゴで全体的に、これは「どこが出している」「どういう趣旨のものだ」、ということが表現されるものになる。番号はどこかに小さく書いてあるくらいでもいいかもしれないです。

委員

このメッセージブックは、「松戸の「みどり」に意識を向けてもらおう」とするものなので、インターフェースとして使うものになると思います。インターフェースであれば分厚いものは必要ないので、この先のことを考えないといけないかなと思います。リンクでみどりの基本計画のデータに飛んだりしてもいいです。雑誌でよくやっているのは、冊子を出すためにした取材の、もっと深い別の写真とかをインスタグラム等に飛ばしたりして、それでもっと深く興味を持った人にも知ってもらうとかっていう方法をよくやっていると思います。そういったパターンに落とし込むことを前提とした、メッセージブックにした方がいいと思います。

3つの世代というペルソナでターゲットिंगのセグメントをしてありますけれども、一番上の子育てが終わった世代というのは、ちょうど私たちの世代なので、心と考えると、僕は紙媒体のものはあまり見ないかもしれないと思いました。一番上の世代でも基本的にはSNSかなと思います。紙を云々とか現時点で細かいスペースを詰めすぎてしまうと、こういうのは進まなくなってしまうので、あまりそこは考えずに、やりながら次のフェーズでどうするっていうふうにしていったほうがいいのかなと思います。

元々はトライアル的にやろうという趣旨でもあったと思いますので、やってみることを考えたいです。

次にメッセージブックの名前について、「Green master Plan」は固いかなと思います。湘南エリアですと「湘南スタイル」という雑誌があって、とても面白いので、松戸では「松戸グリーンスタイル」とか、「グリーンメッセージ」くらいでもいいかもしれない。もっと松戸を出してもいいんじゃないかなと思いました。

10番のメッセージブックの構成は他の委員からもご指摘がありましたが、この並びは絶対やめた方がいいかなと思います。取材とかのページが最初の方に来ないと、今の人たちは瞬時に面白いか面白くないかの判断をしてしまう。情報が増えている中では、一番最初にインパクトのあるもの、興味を引くものがないとスルッと流されて見てもらえないので、目的とか、市民憲章とか、そういったところは後ろの方に持って行って、まずはライフスタイルのところを持ってきてしまうパターンが一番いいのかなと思います。

あと表紙の部分ですけれども、案として写真を使わないのもいいと思います。いろんな冊子とか雑誌とかのほとんどが写真を使うパターンなので、写真を使うと埋もれてしまう。横並びでチラシが置かれたときとかに「松戸市みどりの基本計画」の表紙のイラストや、もっとシンプルに雑誌のタイトルだけあって3つの世代でベースの色だけを変えた表紙にしちゃうとか、そういったものが逆に目を引くと思います。

会長

松戸らしさとか、構成の順番とか、表紙とか、何よりも今日話していたことを一言でおっしゃっていただいたのは、インターフェースとしての冊子という位置付けというのが分かった気がします。

これをきっかけに、深掘りしたい人はできるようにしておく仕掛けがあって、そのキッカケになることを考えたいですね。

委員

企画発行は松戸市と緑推進委員会になっていますが、編集作業はみどりと花の課で、やるんでしょうか、それとも外注される予定でしょうか。

事務局

基本的にはある程度の形が出来たら、それに基づいて外注することを考えたい。

委員

その方がいいなと私も思います。

7番にある全体レイアウト方針のデザインの部分ですけれど、レイアウトのデザイン監修の部分は出来ればプロにお願いしたいですね。

取材とかそのデータは我々とかが協力していくわけですけど、デザイン監修はプロにお願いした方がいいものになると思います。紙媒体はお金がかかるので、そこにお金をかけられるならデザインをお願いしたいですし、お金が十分でないならデザイン編集にお金を集中した方がいいかなという気がします。

委員

最初は素材の倉庫を作るようにして、そこから踏み出して一部を基に最終的には紙で出す。まずこういう形のもので作りますというのを、もうちょっときちんとした形で作ってみてから、「何を入れて」「こういうものを題材に」とやっていった方が中身に広がりが出てくると思います。プロの編集者でも企画が一番苦勞する。企画自体よりも素材のプールがあった方がいいものになると思います。

会長

素材を集めてやってみて、編集をどうしようかっていうところについて、多分、行ったり来たりするんだろうなと思います。

今後の進め方ですけど、まず今日出た話しは1回フィードバックしてください。最初のスケジュール設定ですと、何となくこんなふうにはできるといいよ、というものを第10回までに作るという目標を立てているので、次までに何かやることは、子育て世代とかにターゲットをセットして取材をしましょうか。

最初は試作版なので全部やることはなくて、どこかに絞ってやりたいと思いますがいかがでしょう。

事務局

まずペルソナの設定をしていただきたいです。どれをペルソナとしてターゲットに選ぶか決めていただいて、そのペルソナに近い人物の生活であったりとか、その辺の情報を取材していこうかと考えています。

実際のみどりのライフスタイルに当てはまるものの取材ではなく、ペルソナに近い人物について

の取材を考えています。

1つペルソナの考え方を確認したのですが、世代から更に詳細なターゲットを一つに絞って、その人物を浮かび上がらせて、そこに対してみどりのプロモーションをかけていく、という考え方でいいでしょうか。

委員

その考え方でいいと思います。

ちょっと話を聞いていて気になっていたのが、せっかくペルソナ設定したのに、またセグメントという大きな枠に戻ってってしまうのかなと思って心配していました。ペルソナを決めて、例えば4番なら4番の人を想定して、その人にみどりのライフスタイルを発信していく。

「今どれにしましょう」というよりも、今いるメンバーの中で、「この人ならドンピシャな人がいる」という人がいれば、その人に向けたものを考えた方がいいと思います。

皆さんが思っている人達なので、これは全てセクターとして正しいと思う。だからまず、「この人ならすぐ紹介できるよ」という人を選んでやったほうがいいのかなと思います。

会長

思い当たる人物はいかがでしょうか。

委員に思い当たる人物がいるようなので、相談して進めていただければと思います。

今のところは、4、5番に近いところでペルソナを設定して、実際の試作品を作ってアピールするようなイメージになりそうです。

議事3) サロン部会からの報告

会長

説明をお願いします。

委員

資料6をご覧ください。

サロン部会では月1回ぐらいのペースで会議を開いて、第2回のみどりのフォーラムをどう開催するか検討しています。

今その準備も進めていまして、まず開催日は11月19日に決めました。その日が雨の場合は、23日に順延します。

この11月19日という日は囲いやまの森で「あそびの森in囲いやま」という毎年11月にやっている親子向けのイベントがあるんですが、その日に合わせて、会場は囲いやまの森の向かいにある金ケ作育苗圃でやります。

「あそびの森in囲いやま」と連携する形で、あそびの森の第2会場のようにしまして、向こうに来た人を呼び込もうということも考えて同日開催としました。

タイトルは、あそこにハーブガーデンがあるので「みどりと過ごす癒しの庭によろこそ」としました。

前は、みどりの活動の関係者団体の方でミーティングを行ったんですけども、今回はそうじゃない人をターゲットにしようと考えました。ちょうど今、議論してきたメッセージブックと同じような方向性で考えています。

今回は2つのプログラム両建てでやります。1つは、松戸のみどりに関わる活動を紹介する。これはパネル展示の形でやります。

次に、金ヶ作育苗圃に来てもらう、ということを考えています。

いろんな方に話しを聞くと「あそこって入っていいんだか悪いんだかわからない。」という意見が多い。なかなか立ち入りづらい場所になっている。ハーブガーデンがあるのを知ってる方は結構いて、ところが行ったことがないという人もいますので、まずはどちらも見てもらうことにしました。

パネル展示の方では、そんなにたくさんじゃないかもしれないですけど、「あそびの森in囲いやま」から来てくださる方々もいらっしゃると思うので、その方々に住まいの近くの森を紹介するという形でそのパネルを使っていこうと、同時にそこでヒアリングのアンケートもしようと思っています。

何もないと来てくれないと思うので、今準備しているのは、花壇づくりネットワークの方に子供向けの遊びをやってもらうのと、ハーブボランティアの方にハーブティーを提供してもらうことを考えています。

11月19日ですから、あったかいハーブティーいかがですかっていうのは魅力的だろうと考えています。

それからもう一つの枠組みが、金ヶ作に特化した緑の再発見ツアーをやって、それに簡単なワークショップをくっつけたものをやろうと思っています。

これが「金ヶ作のみどりとまちをつなごう」というものですが、これは一般の方に向けてやるのではなくて、こちらから呼びかけて来てくださる団体・個人の方にしました。

なぜそうしたかという、例えば子育て支援をしている団体さんとかたくさんあるんですけども、こちらである程度把握をしていて、ある程度アクティブに活動している人という基準で決めました。団体だとなかなか簡単に参加できないので個々の方々に当たりました。

今現在で了解いただいているのが、金ヶ作歴史同好会。常盤平児童福祉館の館長。森のこども館の館長。勉強会の講師をしていただいた影山さん。聖徳大学の生涯学習研究所の有川先生。金ヶ作自然公園で冒険遊び場をやっている松戸あそぼうよ。松戸花壇づくりネットワーク。松戸ハーブボランティア。になります。

なぜここまで絞り込んだかというと、金ヶ作を割とよく知ってらっしゃる方と、それからあんまりよく知らない方もいる。そういう接点を一つ作りたい。

それから、こういう方々にここで何ができるか、どんなことがやりたいですか、という話を聞くと割とアクティブな方々なので、何かしらの関わりを持ってくれそうだなという狙いもあってこのような選び方をしました。

この10人ぐらいの方と、ここに学生さんも入ってもらってツアーをやろうという、この2つのプログラムでやろうと思っています。

ワークショップもあまり込み入ったことができないので、アンケート用紙を1枚作って、それを使ったそれぞれの意見の共有をしようと思っています。

今プランとしては、ほぼ準備できてきていますが、当日の人手が足りない状況です。今の部会は5人でやっていまして、ツアーの方は緑のネットワーク松戸のメンバーが協力してくれるんですけど、会場の方が人手不足になっています。

緑の再発見ツアーをやっている間は留守になりますので、その間のコントロール等が必要です。委員の方で、当日、手伝える方がいらっしゃれば是非お願いしたいと思います。

あと下の方にあるプログラムで、輪投げというのは、花壇づくりネットワークの方がやってくださいます。

お絵かきでオリジナル植木鉢を作るというのは、今年の春のみらいフェスタでやろうとして準備してたものが雨で流れちゃったので、材料がたくさんあるということで、もったいないから使いましょうというものです。

なぞときクエストというのは、あそびの森から、こちらに来てもらう1つのキッカケに使おうというクイズラリーです。

あとはハーブボランティアの協力を受けた香り体験や、ハーブティーというプログラムで準備を進めています。

会長

何でサロン部会を作ったかということ、縦割りになりがちな活動を横につないでいこう、みどりの中だけの活動ではなくて、「みどり×何とか」とか「里やま×何とか」という異なる領域と繋がっていくことが、関係者を増やすことに繋がる。

関係者を増やしたり、関心を持ってくださる方を増やしたり、協力してくださる方が増えた。

或いは、「みどり」だけではできないことができるようになる。そういう繋がりを作っていこうというのが、元々の趣旨です。

今回の企画では、色んな方が参加されるので、とても楽しみです。

前から少しお話をさせていただいてるんですけども、千葉大学の方も木下委員と私の研究室と、園芸療法とかをやられている岩崎先生の研究室で、この育苗圃とか囲いやまの森を「みどりの市民活動の拠点」にしようという提案を、松戸市と一緒に研究させてもらってます。

研究は研究としてやっているんですが、せっくなので修士の学生の実習に取り込んで、ここをどうしたらいいか提案するというのを、修士の演習の中でやろうとしています。

活動の拠点としてふさわしい空間の整備・計画をどうするか、みどりを普及させていくための新しいプログラムをどうやって開発していくか。

このサロン部会で考えているような、色んな人が関わりながら運営していくイメージを持っていますので、そういった他主体が繋がってマネジメントしていくようなイメージ。

その3つを統合したマスタープランを提案しようという割とハードル高めな課題設定にしてあるものです。それを2月ぐらいまでその演習をして、3月にぜひ公開で現場でやりたいなと思っています。

その過程で、このみどりのフォーラムに学生も参加してさせていただいて、このツアーに加わったり、加わった方とディスカッションしたり、実際そのイベントの運営しているを手伝ったり、お話をしたりしながら、イメージを作っていこうっていうことを考えていますので学生が20名ほど参加すると思います。

3つの研究室がプロジェクトをやっていますので、そこで何かできないかということは一応考えています。

岩崎先生の研究室からは、ハーブウォーターとか。私の研究室は、ウッドチップで緑資源のリサイクルとか4%とかで脱炭素やゼロカーボンみたいなこと。木下委員の研究室は、植物の出来次第ですが雨庭の印象評価みたいな。今回全部できるかわかりませんが、そういったものをうまく絡めながら、研究もできるし、演習もできるし、サロンと組んで盛り上がる新しいコミュニケーションも考えられると思っています。

一般向けというか、どちらかといえばあそびの森に来た方が中心になるので、あまり積極的な広報をするのではなく、あそびの森でチラシを配ったりします。

かなり近接した立地ですが、今までは一体的に利用した例があまりないので、そういった意味でも実験的なものになると思います。

委員

金ヶ作育苗圃に関心を持っている方は地元でもいると思いますが、現状は接点がない。場と人が結びついていないので、そういう人への機会の提供になってほしい。

会長

私も木下委員も現地にはいますが、学生の演習等があるのでフォーラムの手伝いができない。当日の会場では、ある程度の人数が必要だと思いますので、参加できそうな方はよろしくお願いします。

お手伝いいただける方への、いつごろ集まる等の事務的な話しはどうなりますか。

委員

次のサロン部会の時に全体の手順を決めるので、それが決まってからお声掛けします。

会長

こういう形で企画されていますけど、よろしいですか。

では、11月19日の10時から15時半。雨が降ったら23日の同じ時間に、この内容で実施するという事で、よろしくお願いいたします。

議事4) その他

会長

その他、何かありますか。

事務局

9月10日に「ぷらっと子どもの森」が開催されましたので、詳細の報告をお願いしたいと思います。

委員

資料に入っている「ぷらっと子どもの森in囲いやまの森 報告」をご覧ください。

竹を切ったものが、3枚の写真に写っているんですけども、こちらは置いてあったものを子供が並べていったものです。アオキの葉っぱを飾っておいたら子供から「それを履きたい」と言われたので、細工をしてサンダルにしました。そんなことをしていたら、お母さんがそのサンダルを履いて竹の上を歩きだして、それを見ていた大人が同じように竹の上を歩き出すような。

子供を中心にして、子供が遊べる森で、大人と一緒に遊んでいると、何か発見があるということが面白かったです。

7月にもやりましたが、このときは森の探検をして、子供とお母さんが「竹を切りたい」と話していたので、ノコギリを使って竹を切ってもらいました

いつも120人くらいが参加する「あそびの森in囲いやま」とは別に、土日だけですが日常的に、「こういう遊びができるんだよ」という機会提供の場となっている。

毎回のように来てくれるリピーター的な人もいるし、友達から口コミで聞いて来る人もいる、SNSから情報を拾って来る方もいる。私たちからすると、隣の裏山で遊んでいたような遊び方というものを再現できたらいいなと思っています。どれも小さい子供たちにとっては初めて体験なので、体験をすることによって新しい学びがあったらいいなという気持ちです。

参加者は子供6人で大人7人、7月の開催時は子供11人で大人7人でした。そのぐらいの参加者での開催なので、そんなに負担はないと感じています。遊びの道具もハンモックを吊るくらいなので、このぐらいの参加者や施設等の規模ならば、あまり負担なく運営していけると感じています。

会長

これはあそびの森とは割と対極的な考えで、あまりプログラムを用意しないで「自由な発想で自由に遊んでほしい」というものから始まっています。

スタッフが負担に感じたりはしていないでしょうか。

委員

今のところ負担感はないので、そこがとてもいいです。

委員

次が10月8日の日曜日です。

今は囲いやまの森でしか開催していないですが、負担に感じないってことは場所さえあればどこか別の場所でやってもいいかもしれないですね。

会長

スタッフの人は「子どもとまつど」の方もいらっしゃるんですね。

参加者はどのぐらいの子供でしょうか。小学校上がる前とか小学校低学年ぐらいまでですかね。

お手洗いはどうされますか。

委員

熊野神社と金ヶ作育苗圃を使うようにしています。

会長

ありがとうございます。
他に何かございますか。

21世紀の森と広場

1点報告があります。

令和5年度第39回都市公園等コンクールにおいて、21世紀の森と広場に整備した「あそびのすみか」が国土交通省都市局長賞を受賞しました。

松戸市を含めた4者での受賞となり、10月27日には表彰式も予定されています。

詳細につきましては、資料をご覧くださいと思います。

委員

経費は、どのぐらいかかったんでしょうか。

21世紀の森と広場

総事業費が、約3億6000万円です。

会長

都市公園整備活用推進委員会で、21世紀の森と広場のこの遊具の話と、多分全体を使う話とかつて議論していたと思いますけど、今は何を議論していますか。

公園緑地課

都市公園整備活用推進委員会という委員会を、平成30年の7月に発足しまして、市内一円の公園の中で、特に緊急性が高い21世紀の森と広場の魅力向上というテーマで4年間ご審議をいただきました。

その中で、遊具とか、レストランとか、カフェテラスサービス施設、バーベキュー場のインターネット予約、そういった緊急性の高い事案について、委員会で審議をしていただいて、令和4年の6月末に委員会としての最終答申をいただいています。

答申内容としては、「パークマネジメントプランを構築することを目指していく必要がある」とのことでしたので、具体的にどう取り組んでいくのが行政内部で検討していきます。ということで、現在は活動を休止している状態です。

今回の「あそびのすみか」については、元聖徳大学の赤羽先生、千葉大学園芸学部の三島先生、NPOクリエイティブまつど工房の榎本さん、みなさまには検討にご尽力をいただいておりますので、今回の事象についてはご報告をさせていただきたいと思っています。

会長

他の委員会のことですが、ぜひパークマネジメントプランは、しっかりやっていただければと思います。

他にありませんか。

21世紀の森と広場

21世紀の森と広場にて予定しているイベントをお知らせいたします。

- ・まつど音楽フェスティバル

10月28日

- ・アートピクニック

10月28日～11月12日

- ・モリヒロフェスタ

11月3日～5日

事務局

次回の開催日程でございますが、12月18日月曜日の午前中を予定しております。

会長

これで本日の委員会を終了します。